

CONTENTS

巻頭言 （臨床看護学講座 渡邊 タミ子）

雑誌の動き

本学教官寄贈図書

図書館ホームページ「雑誌関連情報」：和雑誌を作成しました。

ラベルが新しくなりました。

看護学科3年次生も特別利用（カードによる入退館）を開始。

図書館のOPAC用端末が24時間利用できます。

新着図書案内

編集後記

巻 頭 言

臨床看護学講座

渡邊 タミ子

昨春、連なる雄大な山々に囲まれ、自然に恵まれた甲斐盆地に、20数年間住みなじんだ東京から拙宅を移してから、早いもので2度目の秋季を迎えている。こちらに来て、先ず驚かされたことは、八ヶ岳連峰から吹き下ろして来る冷たい風々の歓迎を甘んじて受けなければならなかったことである。通勤の行き帰りには‘我慢・忍耐’という衣を身にまとわなければならぬこともしばしばで、目障りな存在である。しかし、時季の経過とともに、春には新緑を薫らせる風、夏には涼やかで癒しをもたらす風、秋には稔りを誘う風、冬には新たな芽吹きを呼ぶ風というように、四季の変化の流れで風をとらえてみると、文字どおり‘風の便り’が届けられ、早々と季節の移ろいを知らせてくれるメッセンジャー (messenger) となり、我々の背にあって見守る強い味方的存在として思えるようになった。都会生活では置き去りにしていた自然と触れあうことの良さを再認識させてくれたのである。

こうした自分の風に対する思いの変化に気づいたとき、次の有名な歌を久々に思い起こすことができた。

秋とだに吹きあへぬ風に色変る
生田の森の露の下草

秋来ぬと目にはさやかに見えねども
風の音にぞ驚かれぬ

藤原 定家

まず前者は、まだ秋になったばかりで、風も十分吹いていないのに、生田の森の露の下草は既に色が変わっているという意味で、秋風が来ないのに色が変わるといふ何とも鋭敏な感受性をもつ草に感銘を受けている歌である。後者では、秋が来たことは視覚的には明らかではないが、風の音によってその秋の気配を感じることができたという繊細な感覚をつかみとる感動的な心を表している意味の歌である。

梅原猛氏は、上記の歌を引用して「日本では、このように色より先に風によって、秋の気配を感じたか否かで、風流人であるかどうかの分かれ目になる」と、さらに「自然の色が変わって秋を知るのは、ヤボな人間の心、秋風によって秋の来るの知るは、風流人の心、そして吹くか吹かぬかの風の気配を感じて秋の来るのを知るは、詩人の心」と定義づけている。ここで言われている<風流>とは、文字通り<風の流れ>であり、風の流れに季節の移りかわりをいち早く知るデリケートな心のはたらきを意味している。

ここで話題が少々逸れるが、病気をもつ人の理解には、病気に伴って生じる心身の変化(病理像、検査データなど)を<色の変化>によって知るだけでなく、ある種の<風>の意味合いをもって把握することがとても重要である。なぜなら、病気は一人の人間に起こった不幸な事件としてとらえられる場合が多いが、それは一人の人の出来

事ではないからである。家族全体の出来事であったり、近隣社会の出来事でもあったりするのである。病気によってもたらされた心身の変化を視覚的に、しかも客観的事実、つまり<色>に基づいて把握することだけでなく、<風の流れ>の中で、その人の病的 - 健康状態の移り変わりとその周辺に生じる出来事をいち早くつかみ取ることが重要と考えるからである。

このように、風流でデリケートな心の働きをもってケア care することが、私の信条とするところである。そして、常にヤボな心より風流な心の方が優位な人間でありたいと願っている。



雑誌の動き

誌名変更

Hepatology research

v. 7 (1997)-

図書館

Formerly: International hepatology communications

本学教官著作寄贈図書

御恵贈ありがとうございます。図書館の蔵書として広く利用に供させていただきます。

- ・ 看護部

看護研究集録 第5巻 - 第6巻 / 山梨医科大学医学部附属病院看護部
1993 - 1996

図書館ホームページ「雑誌関連情報」：和雑誌を作成しました。

前回お知らせした「雑誌関連情報」の中の和雑誌がしばらく作成中になっていましたが、リンクができあがりました。直接その雑誌にリンクしているものと、出版社の雑誌一覧リストにリンクしているものがありますので御利用ください。

ラベルが新しくなりました。

図書や、製本雑誌に貼っている登録ラベルを新しくしました。昨年システム更新にともないバーコード式のラベルに、枠の色をブルーから赤に変えました。将来的には自動貸出返却装置に対応させることを考えております。

今年度受け入れ分から新しいラベルを貼っていますがもう目にとまりましたでしょうか。

看護学科3年次生も特別利用（カードによる入退館）を開始

医学科5、6年次生を対象として拡大していた特別利用（カードによる入退館）の試行を、本年9月より看護実習を実施する看護学科3年次生にも開始しました。

これにより、従来にも増して、夜間、休日等にカードによる利用者が多くなることが予想されますが、今後とも利用規則に違反がないよう、また基本的モラルを守るようご協力をお願いします。

利用者の方たちがこの特別利用を大いに利用され、さらに学習効果を上げられることを期待しております。

図書館のOPAC用端末が24時間利用できます。

図書館のOPAC (Online Public Access Catalog)のコンピュータが、平日の午後8時以降、土曜日の午後1時以降および日曜日の特別利用時（カードによる入退館）も利用可能となりましたので、お知らせします。通常画面は暗いですが、マウスを少し動かすことにより資料選択画面が現われます。なお、検索終了後は最初の資料選択画面の状態のままにしておいてください。しばらくすると画面はまた暗くなります。File強制終了は、絶対しないようにお願いします。

編集後記

夏も終わり、すごしやすい季節になりました。
読書の秋ということで、研究や趣味に図書館を利用される方も
多いと思います。
図書館をより多くの方に利用していただきたいというのは、図
書館に勤めるものの共通の願いです。すこしでも、図書や雑誌
に興味のある方は、是非図書館にきてください。
図書館の仕事について半年の私としては、できるだけ皆様のお
役に立てるよう努めたいと思っています。
また、サービスに対する改善案などありましたら、お気軽に職
員にお申し出ください。

(H. Y.)



編集 / 発行 山梨医科大学附属図書館			
<TEL> 直通	73 - 6732	情報管理係	内2108
図書課長	内2106	情報サービス係	内2109
総務係	内2107	カウンター	内2110